

開講年度	令和6年度	開講課程	博士課程
授業名	地域医療課題特論 I		
開講キャンパス	紀三井寺・伏虎	教室	基礎教育棟3階講義室3 中講義室303
科目区分	ベーシック科目	配当年次	1年次
必修・選択の別	選択	単位	1単位
対象学生	—	使用言語	日本語
キーワード	がん、脳卒中、循環器内科学、糖尿病、バイオ・サイコ・ソーシャルモデル、心身相関、難治性神経疾患、抗がん薬、分子標的治療薬、治療効果、副作用		
担当教員 (下線：科目責任者)	医	教授 山本信之、教授 松岡孝昭、教授 田中 篤、教授 紀本創兵、教授 中尾直之	
	薬	教授 須野 学	
授業の概要	本県におけるがんや脳血管障害、循環器疾患、糖尿病などの状況について学び、地域の保健医療課題に対する理解を深めるとともに、自ら課題を発見する能力や幅広い観点から考察する能力の基盤となる知見を修得する。		
到達目標	<input type="checkbox"/> 我が国、本県におけるがんの重要性を高い知識レベルで理解する。 <input type="checkbox"/> 脳卒中予防に向けた地域の保健医療課題について理解する。 <input type="checkbox"/> 地域の保健医療における循環器内科及びその周辺領域の課題の理解に必要な知識を高いレベルで修得する。 <input type="checkbox"/> 糖尿病の発症メカニズムを理解し、その発症抑制方法につき議論する能力を身につける。 <input type="checkbox"/> 精神疾患の成因を理解し、治療・介入の方法について高い知識レベルで修得する。 <input type="checkbox"/> 難治性神経疾患における最新の診断・治療法について理解する。 <input type="checkbox"/> 殺細胞性抗がん薬及び分子標的治療薬を用いた治療と効果及び副作用マネジメントに必要な知識を修得する。		
授業計画	<p>1. 我が国、本県におけるがん診療の最近の動向（山本信之／1回）【9/5 6限】 我が国及び本県におけるがんの疫学、治療方法の最新の動向について解説する。</p> <p>2. 糖尿病発症のメカニズムの理解と発症予防（松岡孝昭／1回）【9/5 7限】 糖代謝について概説し、糖尿病の発症と治療に関するメカニズムについて解説する。</p> <p>3. 地域の保健医療における循環器内科学的課題の最近の動向（田中 篤／1回） 【9/12 6限】 循環器疾患の診断に関する基礎知識および最新の研究成果を概説し、地域の保健医療における循環器疾患課題への理解を深める。</p> <p>4. 精神疾患の最近の疫学的動向と疾患の病態基盤と介入アプローチの多面的な理解（紀本創兵／1回）【9/12 7限】 精神疾患の成因を理解し、疾患に対する治療・介入の方法について高い知識レベルで修得する。</p> <p>5. 脳卒中（中尾直之／1回）【9/19 6限】 脳血管障害の種類とそれぞれの病態、予防、治療について講義を行う。</p> <p>6. 臨床神経学（未定／1回）【9/19 7限】 難治性神経疾患における最新の診断・治療法について講義する。</p> <p>7. 腫瘍薬物療法学（殺細胞生抗がん薬）（須野 学／1回）【9/26 6限】 殺細胞性抗がん薬を用いた治療の効果とメカニズム、副作用マネジメントについて解説する。</p> <p>8. 腫瘍薬物療法学（分子標的治療薬）（須野 学／1回）【9/26 7限】 分子標的治療薬（低分子医薬品、抗体医薬品）の選択性、効果と副作用マネジメントに必要な知識について最新知見を紹介する。</p>		

授業の方法・形態	講義を中心とする。 遠隔会議システムを利用した同時配信を行う。
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。
成績評価の基準	授業への取組20%（発問に対する応答や発言内容、主体的・積極的な受講姿勢）及びレポート80%によりS（90点以上）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、D（59点以下）の5段階で評価し、C以上を合格とする。
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。
オフィスアワー（学生からの質問事項等への対応）	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。
教科書・参考書	<p>【教科書】 特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。</p> <p>【参考書】 授業計画2 「糖尿病学 - 基礎と臨床 -」 編集：門脇 孝、佐倉 宏、戸邊一之、石橋 俊、野田光彦 出版社：西村書店</p> <p>授業計画4 「カプラン臨床精神医学テキスト DSM-5診断基準の臨床への展開 第3版」 監修：井上令一 翻訳：四宮滋子、田宮 聡 出版社：メディカルサイエンスインターナショナル</p>